教員おすすめ図書コーナー推薦書

教　員　氏　名 矢野　修一　先生	おすすめメッセージ
１　図書名：『世界史の考え方』 著　者：小川幸司・成田龍一編 出版社：岩波新書　　ISBN：978-4-00-431917-7	岩波新書「歴史総合を学ぶ」シリーズの第一弾。「近世から近代への移行」「近代の構造・近代の展開」「帝国主義の展開」「二〇世紀と二つの世界大戦」「現代世界と私たち」の各章で、対談形式をとって、注目すべき書物をたたき台にしながら論点を深めていく。 帝国主義や総力戦、植民地支配、グローバリゼーションに関する知識や洞察もなしに、企業経営を語るなど、ちゃんちゃら可笑しい。高校の新科目は、現代における基礎教養、必須の身だしなみだ。教科書の現物を手に取らないまでも、本書を通じて歴史的想像力を養い、「私たち」と「奴ら」を恣意的に線引きする「知の怠慢」から抜け出よう。
２　図書名：『2100 年の世界地図―アフラシアの時代』 著　者：峯陽一 出版社：岩波新書　　ISBN：978-4-00-431788-3	国連の推計によれば、2100 年に世界人口は約 112 億人となり、アジアとアフリカでその４割ずつ、合計で約８割を占める。「アフラシア」とは、両地域を括る地理的概念だが、これまでの歴史や現在のヒト・モノ・カネの動きに鑑みれば、ここには、人類の目指すべき「汎地域主義」の萌芽が見いだされる。 現代世界は、グローバル・リージョナル・ナショナル・ローカルのそれぞれで、どのようなガバナンスを構築するかが大きな課題である。本書は「100 年後」の「アフラシア」から、課題の解決に向けた指針を浮かび上がらせようとしている。知的刺激に満ち溢れた好著。
３　図書名：『ブラジルの社会思想―人間性と共生の知を求めて』 著　者：小池洋一・子安昭子・田村梨花編 出版社：現代企画室　　ISBN：978-4-7738-2212-0	「社会思想」といえば、西欧の専売特許のように勘違いしている人が多いかもしれない。本書は、近現代のブラジルにおいて「今この時」に対峙してきた社会思想家それぞれの営為に、分断深まる世界を架橋する「人間性と共生の知」という公約数を見いだす試みである。 ブラジルで育まれた人種民主主義、被抑圧者の教育学、解放の神学、従属理論、非暴力的抵抗運動、社会環境保護主義、先住民の権利確立運動などの思想や実践は、広く世界に大きな影響を与えてきた。リオでサミットが開かれたり、ポルトアレグレで世界社会フォーラムが立ち上げられたりしたのは、偶然ではない。上記２冊とともに、グローバルサウスへの視点を養ううえで必読の書。